Soto-Zen.Jyousenji

淨泉寺報

第１３号

檀信徒の皆様には輝かしい新春をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

また、喪中にて新年を迎えられましたご家庭には、本年がよい年となりますよう衷心よりお祈り申し上げます。

更に檀信徒の皆様方には、日頃より淨泉寺の護持等に格別のご高配を賜っておりますこと、年頭にあたり改めて厚く御礼申し上げます。

昨年は、皆様方のご協力を得て大本山總持寺の二祖峨山禅師様の六百五十回忌大遠忌及び開祖螢山禅師様の七百回大遠忌のご寄附をお願いいたしましたところ、目標を上回る浄財をお寄せいただきました。只々有難く衷心より感謝と御礼を申し上げます。その大本山總持寺二祖峨山韶碩禅師様の六百五十回忌大遠忌は本年に執り行われます。今年中には、お参りの参加募集のご案内を差し上げることを予定しておりますので、その節はぜひご参加くださいますようお願い申し上げます。

曹洞宗十三佛（國井道成作）

また、昨年を振り返りますと、四月には私たちの生活にとても影響のある消費税の増税がありました。一向に景気の上昇を実感できないという多くの方たちの意見がある中で、少子高齢化に伴う年金や医療制度の堅持には必要なことと理解していても、日々の生活の中で大きな問題でした。この結果経済は思った以上に停滞し、消費税の再増税も先延ばしにされ、衆議院が解散され年末の総選挙という慌ただしい歳の瀬となりました。

ここに新たな歳を迎えましたが、今後日本の経済情勢は多くの不安を抱えているように思います。円安と株高等の経済情勢も不安定な気がいたします。また寺院においては、特にこの少子高齢化は深刻な問題で、地方の過疎化が進む地域では、すでに寺院の存続を危ぶむ声さえも出ておると聞いております。今後の寺院のあり方や地域との関わりについて、現代社会における存在意義も含めて再検証し、求められる寺院としての務めを果たしていかなければならないものと考えて居ります。一層のご協力等をお願いいたします。

さて本年の予定ですが、先ず本年は總持寺の二祖様峨山禅師様の六百五十回忌大遠忌の年にあたりまして、秋頃には大本山總持寺への団参も教区参拝旅行として計画されるようです。得難いの機会でありますので多くの皆様のご参加をお願いいたします。

おわりに、ご家族様の皆様のご健勝を心からお祈り申し上げます。

住職合掌

当面の行事等

1月　1日　檀信徒初詣
　午前９時から午後４時まで

1月　8日～9日
　浄泉寺本寺　大雄院（日立市）開山忌

1月１１日　総代・世話人会　午前１２時００分

2月１５日　涅槃会（お釈迦様の忌日法会）

3月１８日～２４日　春彼岸会

4月8日　降誕会（お釈迦様の誕生日・花祭り）

※　お子様方をつれて、甘茶をかけにおいでください。夕方までお参りができます。お子様にはお菓子などを用意します。

発行所　〒285-0902　千葉県印旛郡酒々井町伊篠647　℡043-496-4342　発行責任者　住職　宮川　義典　http://www.jyousenji.jp

かずさアカデミアホールで ご詠歌の大会に参加

昨年十月二十二日、木更津市のかずさアカデミアホールにおいて第十八回梅花流千葉県奉詠大会が開催され、淨泉寺御詠歌講も参加をしました。

今回は初めて他の講との合同奉詠で、お隣の佐倉市勝胤寺講と一緒に出演しました。（写真上）

厳かに開会式、式典と続き、県内各御詠歌講が順番に登壇し奉詠していきます。

淨泉寺講は、十六番目の登壇になります。奉詠曲目は「**大聖釈迦如来成道御和讃**（だいしょうしゃかにょらいじょうどうごわさん）」をお称えいたしました。

慣れない二講合同の奉詠でしたが、とても元気よくできました。

すべての講の登壇奉詠が終った後で、今年は清興として三味線プレイヤー**浅野　祥**さんをお招きし、その演奏を楽しみました。津軽三味線のほか、様々なジャンルの曲を披露してくれました。

淨泉寺で 御詠歌 講習会が 二回開催されました

本年は、第三教区（佐倉市・四街道市・成田市・富里市・酒々井町・栄町の区域・千葉県内には十六の教区があります。）の年度講習会が、すべて淨泉寺を会場に行われました。その内梅花流御詠歌の講習会が二回あり、七月二日の下総地区講習会、十月二日の第三教区特派講習会でありました。

県内・郡内から大勢の講員さんや講師様が参加され、朝から夕方まで熱心に勉強されていました。

歳寒松柏

新春とはいえ、厳しい寒さが続いています。しかし「寒」の時ほど、物や人の値打ちがよくわかる、といえましょう。「歳寒の松柏」は、松や柏が冬の寒さにめげず、常緑を湛えていることを、立派な人は逆境にあっても節操を変えないことにたとえます。

この寒中、僧や信徒には、寒念仏・寒参り・寒垢離などの修行があります。僧は寒中にのどを鍛えてこそ朗々とした声でお経を読み、寒中に濯かれた和紙は丈夫で重宝されます。「寒」は身心の一大道場なのです。

鶴は千年　亀は万年
我は天年　仙厓和尚

千年万年も生きる鶴亀よりも長生きする方法は、「私は天年、仏年を生きている」と自覚することでしょう。それが、死んでも死なない生き方になるのです。生き死のことは、天命・仏命に任せるだけです。「天地をわが心となせば到るところ安楽なり」です。

発行所　〒285-0902　千葉県印旛郡酒々井町伊篠647　℡043-496-4342　発行責任者　住職　宮川　義典　http://www.jyousenji.jp

八月十五日送り盆の夜
淨泉寺恒例の万燈会開催

琵琶奏者　岩佐　鶴丈　氏

淨泉寺の万燈会は、例年通り八月十五日の送り盆の夜に本堂で開催されました。

境内や墓所に青竹で灯籠をつくり、約三百余の灯りがともされ送り盆にふさわしい雰囲気が境内一帯に醸し出される中行われました。午後七時から各ご家庭のご先祖様のご供養の法要が行われ、その後、淨泉寺での二度目の出演となる琵琶奏者　岩佐鶴丈さんによる薩摩琵琶と楽琵琶の演奏を聴かせていただきました。

先ず平家物語から薩摩琵琶で「俊寛」と「啄木」が演奏され、次に薩摩琵琶と楽琵琶の違い等についてお話があり、かの楊貴妃が玄宗皇帝のために作ったとされる「楊貞操」という楽曲が楽琵琶によって演奏されました。

最後は薩摩琵琶にもどり、有名な「敦盛」が披露されました。平家物語は、送り盆のご先祖様への想いと重なるような場面もあり、お盆独特の雰囲気が会場を包みました。

当日はご先祖様を送ってこられた檀信徒の皆さん等が多数本堂に上がり、滅多に生で聴くことができない琵琶の音色と平家物語の旋律に酔いしれ、その演奏を楽しんでいました。

参加者でほぼ満員となった本堂で

ご奉納の披露

● **古刀**（脇差）**一振**
酒々井町伊篠
吉岡　良夫氏

吉岡良夫氏から、この夏にご逝去されたお母様の菩提を弔うため淨泉寺に古刀一振りが奉納されました。

● **龍の口**（水屋用）
山武郡
河上　良太郎氏

河上良太郎氏からやはり本年八月にご逝去されたお父様の菩提を弔うため、境内の水屋に設置する龍の口が奉納されました。

工事は後日実施する予定です。

卒塔婆とその供養の功徳

塔婆とは、詳しくは「卒塔婆」と書き、古代インドの言語、サンスクリット語（梵語）の「ストゥーパ」から来たものです。

元は土饅頭型に盛り上げた墓のことで、特に仏教ではお釈迦様の舎利（遺骨）や遺品を納めた供養塔を意味していました。

寺院にある三重塔や五重塔は、この供養塔が変化したものです。

法事の時に建てるのは板塔婆で、頭部が独特の形をしていますが、これは宝珠・半円・三角・円・方の五輪塔を模したものです。

空　風　火　水　地

五輪とは、空・風・火・水・地という、宇宙を構成する五つの要素をいい、またそのまま仏身を現したものです。

お塔婆は仏様の身体そのものなので、それを建立する功徳が種々に説かれています。

今、その功徳を述べると、

一、塔婆はそのまま仏様の御姿であるから、一基建立することは、仏像を一体建立するのと同等の功徳がある。

二、塔婆を見ることは、人と仏様とは五輪（頂・面・胸・腹・膝の五処）のすがた・かたちとして、根本において同じであることを教え、仏心の目覚めを促すはたらきをもっている。

三、塔婆を建てることにより、仏様に対する崇敬の念と、霊位に対する報恩と感謝の念を増すことができる。

四、塔婆供養は、回向するところの霊位を安楽の境界に導き、仏果を増す。

五、塔婆は、志すところの霊位のみならず、それを目にするものすべて（衆生＝もろもろの生き物）に、同じく利益を及ぼすことができる。

ということが、お経に説かれているのです。

発行所　〒285-0902　千葉県印旛郡酒々井町伊篠647　℡043-496-4342　発行責任者　住職　宮川　義典　http://www.jyousenji.jp

●ＡＥＤ（自動体外式除細動器）を設置しました。

浄泉寺をご法事等で訪れる皆様方の安全を確保するため、自動体外式除細動器を、本堂と客殿の間の回廊に設置いたしました。不測の事態が起こった時、救急車の到着前にこれを活用することによって救命率が数倍上がると言われております。

●客殿内の和式トイレを全て洗浄機能付き洋式トイレに替えました。

客殿建設当時は、敬遠されがちな洋式トイレでしたが、足腰のご不自由なお客様も増えており、利用者の方々のご希望にお応えすることとし、今般客殿内のトイレを全て洗浄機能付きの洋式トイレに変更しました。また立ち上がり時の負担を軽減するための手すりも設置いたしました。併せて便座の除菌用品も揃えましたので、お知らせいたします。

●淨泉寺墓苑参道（本堂脇の坂）の滑り止め舗装を実施しました。

この坂は、コンクリート舗装されておりましたが、日陰のため雨天時などは滑る危険がございましたので、今回目の粗い浸透性のアスファルト舗装にいたしました。

淨泉寺では、これからもご利用いただく皆様方の声に真摯に耳を傾け、日々努力をしてまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

●境内の垣根を作り直しました

淨泉寺では数年に一度、副住職が主となって境内の垣根作りをしております。今回は四年ぶりの更新ということで、昨年の暮れお正月を前に青々とした垣根が組まれ境内が一新しました。

また、伊篠在住の吉岡正孝様の手によって本堂前に門松も飾られました。

淨泉寺にお越しの節はどうぞご鑑賞ください。

墓苑利用者の皆様へ

淨泉寺墓苑の使用者及び利用者の皆様におかれましては、常日頃から墓地管理規則に基づき、適正にご利用いただいておりますこと、誠にありがとうございます。お陰様で比較的清潔できれいな墓苑を維持することができております。

しかしながら、近年カラスの被害で生花が引き抜かれ散乱し、またペットボトル、ジュース等の空き缶や陶器の茶碗が壊され、散らばっていることがあります。

そこで今一度、皆様方へお願いを申し上げます。

先ずペットボトルや空き缶についてもお参り後、できる限りお下げしてお持ち帰りくださいますようお願い申しあげます。

また、陶器の茶碗等は、風やカラスのいたずらにより破損し散乱しますので極力ご遠慮ください。

更に常花（造花）ですが、できるだけ元に戻すことにしておりますが、引き抜かれますと、いずれの墓所のものか判別できず、不本意ながら廃棄することとなります。

せっかく供養のためにあげた花でございます。キチンと束ねてテープ等に所有を表記するなどの処置を施していただければ、できる限り元にお戻しいたしますのでよろしくお願いいたします。

やすらぎはご先祖の供養から

一周忌　平成二十六年
三回忌　平成二十五年
七回忌　平成二十一年
十三回忌　平成十五年
十七回忌　平成十一年
二十三回忌　平成五年
二十五回忌　平成三年
二十七回忌　平成元年
三十三回忌　昭和五十八年